

食品衛生事業(協)設立 食品衛生・食育の架け橋に



八千代中央食品衛生事業協同組合
理事長 横山博美

長かった不況の底打ちに厚い期待が寄せられていますが、地域の中小企業の皆様にとりましてはまだ先が不透明で実感が伴わない昨今だと思えます。

長期不況が真に終息しても、私たちの前途には大きな課題が山積みされています。少子高齢社会到来や、住環境及び治安悪化など、また本年がわが国の労働人口のピークであり、公共団体の財政危機も課題の一つとなっております。

バブル経済崩壊によって人々の価値観も大きく変わりました。家計が逼迫し、生活のため外食の理容の仕方も変わりました。反面、市民の健康志向や地域活動・文化への関心も高まり、行動範囲の広がりが見られます。経済の大きな変化の中で、時間消費型社会が定着しつつあると言えます。

このような世相を背景に、私たちは数年前から外食及び食品業の将来展望を議論して参りました。組合の法人化による事業責任の明確化・協同事業の取り組み・交渉力の強化などについてでありました。

食品衛生事業の密度を高め、また地域及び組合員個々の事業活動を活性化することを課題としてまいりました。

本日、関係各位のご指導とご協力を賜りつつ協同組合設立の日を迎えることができましたが、本協同組合設立時の員数は20名にすぎません。今後、任意団体であります大和田食品衛生組合解散と同組合員の協同組合移行(加入)を進め、組織を整えることを当面の業務とい致します。

私たちの歩みは法人化の第一歩を踏み出したに過ぎません。これまで協同組合設立に向けてご指導くださいました関係各位には心より深謝申し上げます、今後ともご協力賜りたくお願い申し上げます。

最後になりましたが、関係各位の末永きご健勝とご繁栄をご祈念申し上げます、協同組合設立のご挨拶といたします。